

平成31年度・令和元年度 東京都立砂川高等学校学校経営報告（定時制課程）

東京都立砂川高等学校

校長 南齊 道雄

定時制課程では、平成28年度より自立支援チーム継続派遣校の指定を受け、学校生活での課題解決による登校の継続と進路決定に取り組んでいる。重点目標として（1）不登校解消・不登校未然防止（2）教職員のライフ・ワーク・バランス（3）新学習指導要領に向けたグランドデザインの構築を掲げ、学力向上、生徒の居場所作り、学習・進学意識の醸成、相談活動の充実等の様々な具体的な取り組みを実施してきた。

平成31年度・令和元年度の学校経営計画に記した今年度の重点目標と数値目標について、具体的取り組みの成果とその達成度を以下に示す。

1 今年度の重点目標

【教務部】		
	内 容	評価
重点目標	(1) 授業の質・量の確保を図るとともに、各教科で本校における学力スタンダードを作成し、授業改善・生徒の学力向上に取り組む。 (2) 少人数指導・習熟度別授業を生かし、個に応じた学力の伸長を図る。 (3) 授業外学習（放課後・長期休業中の補習等）をさらに充実させる。 (4) 学校外の学修（資格取得）への取り組みを推奨する。 (5) 3修（3年間での卒業）の推奨を進める。 (6) 学力向上研究校として基礎学力が不十分な生徒への支援を行う。（「校内寺子屋」事業に取り組む） (7) 教務部内の仕事の組織化とOJTを推進する。 (8) 礼を正すという意味で、授業の始まりと終わりの挨拶をきちんと行う。 (9) 次期学習指導要領実施までのスケジュールについて具体化し進めて行く。 (10) 通信制課程との連携を考察し具体化できるように努めていく。 (11) 成年年齢が18歳に引き下げることによる消費者教育充実のため平成32年度入学生から「家庭基礎」を2年次までに履修する具体策を検討する。 (12) 教務部内の業務の効率化や会議等の時間短縮などライフワークバランスに配慮した働き方改革を推進するように努める。	
具体策	(1) 5教科必修科目の学力スタンダード・到達度目標を作成し、修正を加えていく。また学力向上に都教委の寺子屋事業を活用する。 (2) 教科主任会・教科会を定例開催し、情報と課題を共有して授業改善に取り組む。長期休業中の講習の枠組みなど、組織化を図っていく。 (3) 各教科との連携を通して、学校全体で基礎学力の向上から応用力をつけることの充実を図る。発展的な学習に取り組んでいける生徒、時間をかけ基礎力から取り組んでいる生徒双方に、個に応じた指導を行い、学力の向上を図る。 (4) 会議等の効率化・スリム化を図り、授業準備時間を確保し、授業改善に取り組むための環境を整備する。 (5) 生徒の学習意欲向上のためのICTの活用を図る。（使い易い環境の整備を進める）そのために研修会を実施する。 (6) 各授業で授業の目的・到達度目標を生徒に明示し、学習に集中して取り組む動機づけとする。また、資格試験への挑戦も促していく。 (7) 履修規定等について検討を行う。 (8) 次期学習指導要領の情報については速やかに伝えていく。	
数値目標	(1) 卒業年次生の卒業率95%以上（4月9日付卒業年次生141名：133名以上） 3月1日現在135名 /141名 95.7% (2) 中途退学率3.5%以下（12名以下） 3月1日 現在7名、年度末2名追加予定（計9名） (3) 「生徒による授業評価」生徒の授業に対する肯定的評価は平均で83%であつ	

	た。 (4) 長期休業中の補習・講習の開講講座数 35 以上 夏期講習 26 講座 25.7%減 (5) 学校外における資格取得 (技能審査) 50 件以上 3月9日現在 63 件	B
<b>【生活指導部】</b>		
	内容	評価
重点目標	<p>基本的生活習慣の確立を目指し、自立と自律を促す指導を徹底するとともに自他の人格と生命を尊重する精神を涵養する。</p> <p>(1) 学校生活に関するガイダンスを丁寧に行うとともに、生徒一人一人に目的を明確にもたせ、学校に自分の居場所を実感させる。</p> <p>(2) 時間の厳守、集団生活のルール、情報モラルなどの規範意識を育成する指導の徹底を図る。</p> <p>(3) 家庭、関係諸機関等と積極的に連携し、自他の生命を慈しみ、健康と安全を自ら確保する態度を育成する。</p>	
具体策	<p>(1) 生徒指導の徹底を図るためにも、生徒指導部と年次、あるいは他分掌との連絡を密にし、全教職員での生徒指導に対する共通理解を深める。</p> <p>(2) 学校生活の中で問題があった場合、一部のことととらえるのではなく、学年集会・全校集会等を利用し、全体の問題としてとらえ、生徒自身に規範・ルールについて考えさせる機会を設ける。</p> <p>(3) スポーツ大会、文化祭、部活動を充実させる。</p>	
数値目標	<p>(1) 部活動加入率 60%を目指す。(中・長期的には 80%を目指す。)</p> <p>(2) 文化祭の出展団体 30 団体以上を目指す。</p> <p>(1) 部活動加入率…46.9% (5/1現在)</p> <p>(2) 文化祭の出展団体…31 団体 (後夜祭、通信制有志含む。総務部、同窓会を除く)</p>	B
<b>【進路指導部】</b>		
	内容	評価
重点目標	<p>(1) 生徒一人一人への支援と自立意識の啓発</p> <p>(2) 砂川高校のキャリア教育の充実</p> <p>(3) 履修指導体制の確立</p> <p>(4) 高大連携の推進</p>	
具体策	<p>●生徒一人一人の個に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <p>●進路実現を確実にを行うため、旧年度よりも早期からの取り組みを行う。</p> <p>●以下の各項目への取り組みを行う。</p> <p>(1) キャリア教育指導体制の確立 砂川高校のキャリア教育の計画の策定および推進</p> <p>(2) 1年次初期の学習習慣の確立と進路意識の啓発指導 家庭等における学習習慣の確立</p> <p>(3) 年次への適切な進路情報の提供と進学・就職ガイダンスの充実</p> <p>①入試改革に対応した進路指導の充実</p> <p>②AO 入試、推薦入試に対応した小論文指導の充実</p> <p>(4) キャリアガイダンスの充実</p> <p>①総合的な学習の時間により 3 年間を通じた指導を実施</p> <p>②グループによる体験的な学習活動等により、意欲と社会的基礎的能力を育成</p> <p>③生活に関する基礎的な理解と適切な職業理解・職業観の育成</p> <p>④多様な科目を選択するための履修指導の充実</p> <p>⑤3 年間を通じた系統的な進路活動の実現</p> <p>⑥東京都の「企業・NPO 等と連携した『社会的・職業的自立』支援事業」の活用</p> <p>⑦進路未決定者に対する YSW と連携した指導の充実</p> <p>(5) 大学との連携教育 (高大連携) 東京工科大学、駿河台大学、東京純心女子大学、東洋大学との連携教育の推進</p>	

数値目標	進路未決定者(大学・短大・専門進学及び就職以外の生徒)の割合 15%以下を継続する。3月23日現在 9.6% (昨年度 10.6%)	A
【総務部】		
	内容	評価
重点目標	以下の業務を滞りなく実施する。最重点目標は入選倍率の確保。前後期共、学校数値目標に近づけることを意識して取り組む。 (1) 入学式、卒業式、入学式、終業式など各種式典 (2) 防災教育 (3) 奨学金の窓口としての就学支援を行う (4) 学校要覧、学校パンフレットなど、刊行物の編集事務 (5) 学校説明会、中学校訪問、塾訪問などの広報活動 (6) 上級学校訪問など、中学校からの依頼の受け入れ (7) 授業公開の実施 (8) 学校ウェブサイトの運営、学校・保護者・生徒間の連絡システムの確保をする学校連絡サービスの管理運営など、ICT関連事業の充実 (9) 対象者の心情を察し、組織的かつ効果的な広報活動の企画運営	
具体策	(1)(2)(6)(7)は前年実施要項を基に、今年度の実態を踏まえ実施する。 (3)は経営企画室、年次、進路指導部と連携しながら生徒情報を収集・追跡し、本人やその保護者対応にあたる。なお、新規導入の高等教育(一部)無償化に伴う変化にも積極的に対応する。 (4)は学校パンフレット・ポスター・クリアファイル・座席カバーを大幅に刷新、導入する。 (8)は(5)を遂行するための重要な手段。ウェブサイトをスマートフォン対応型に改編することでユーザーからのアクセシビリティを向上させる。同時にツイッターを導入することにより本校から発信する情報への近接性を高め、本校の認知度向上に努める。電子申請システムを導入することにより、見学会の運営を円滑化すると同時に、情報処理の流れを高効率化する。生徒、保護者においては学校連絡サービスの利用促進、組織的な利用、管理維持を適切に行う。 (9)全職員の協力体制を仰ぎながら、中学校訪問等広報活動の企画運営を積極的に実施していく。サービスマインドを持ち、「自分だったらどう対応されたいか」を考え、行動する。	
数値目標	・ホームページアクセス数：年間100,000件以上(前年度128,052件) →今年度：124,513件 ・入選倍率 前期1.6倍以上、後期1.5倍 →今年度 前期1.23倍 後期0.88倍 ・学校説明会等参加者数1,200名以上(前年度1,180名) →今年度 1,328名	B
【保健相談部】		
	内容	評価
重点目標	1 穏やかに安心して学べる学校の実現を目指す 2 怪我なども少なく安全な学校の実現を目指す 3 学校環境の整備を通して、安らげる学習環境の実現を目指す	
具体策	1 相談室や保健室を活用し生徒が安心して内面を表せる場をつくる。 Y S W、S C との連携の下、校内の教育相談体制の充実、拡充を図る。 2 生徒理解のための情報交換、カンファレンスを行う。 教育相談委員会や研修会を行い生徒理解につなげる 合理的配慮を踏まえた特別支援教育体制の確立、推進を図る 3 相談内容により短期及び長期的に関わり、精神的な支援、個別支援を行う 関係機関と連携をしながら学校外での支援も強化する	

数 値 目 標	1 不登校発生率6.5%以下 2 不登校解消率80% 3 中途退学率3.5%以下	5.5% 75.6% 3.2%
<b>【1年次】</b>		
	内容	評価
重 点 目 標	(1) 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図り、学習習慣の確立や学習意欲の向上を目指す。 (2) 生徒に自分が価値のある大切な存在であることを実感させるとともに、社会生活を営む上での規範を身につけさせる。 (3) 責任感や連帯感の涵養、他人を思いやる心を学び、好ましい人間関係の形成や公共の精神等を育む。	
具 体 策	(1) 総合的な探求の時間等を活用し、自己の将来の生き方や進路について考えさせ、そのために必要な授業や家庭学習の大切さを各教科と連携し、粘り強く指導をしていく。 (2) 各分掌や外部の専門機関との連携を密にし、個々の生徒の特性等に適切に対応する。また、挨拶の励行、遅刻・身だしなみ指導等について、教師間の共通理解の下に協力して一貫性のある指導を組織的に展開する。 (3) 生徒が主体的に取り組む意欲をもって、自己実現に必要な能力を養うとともに、共に学び、活動することを通して存在感や自己実現の喜びの得られる機会として、ホームルーム活動や学校行事等を活用していく。	
数 値 目 標	(1) 成績優秀者25名以上 ➡ 24名 (2) 出席不良者15名以下、皆勤学期20名以上 ➡ 出席不良者36名、皆勤者18名 (3) 年間特別指導件数5件以下 ➡ 0名	B
<b>【2年次】</b>		
	内容	評価
重 点 目 標	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに主体的に学習に取り組む態度を養い、成績優秀者数の増加を目指す。 (2) 体育的行事、集団宿泊活動や集会などの特別活動を相互に関連させながら、生徒が自主的に健康な生活を実践することのできる資質や能力を育成し、出席不良者数の削減を目指す。 (3) 各教育活動の特質に応じて、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度などを養う。	
具 体 策	(1) 進路指導部と連携を密にとり、生徒個々の能力・適性を十分に生かせるよう、個人面談や三者面談などを活用し、早めの進路方針を立てる。また就業体験等の体験的な学習等を通じ、社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成等について指導する。 (2) 各分掌や外部の専門機関との連携を密にし、個々の生徒の特性等に適切に対応する。また、挨拶の励行、遅刻・身だしなみ指導等について、教師間の共通理解の下に協力して一貫性のある指導を組織的に展開する。 (3) 保護者会や学校連絡サービス等を通じて、家庭との連携を密にし、学校の教育方針や特色ある教育活動の取組、生徒の状況などを説明し、理解を求め協力を得る。また学校が家庭からの要望に応えることで相互の意思疎通を図りながら教育活動を実践する。	
数 値 目 標	(1) 成績優秀者20名以上 ➡ 23名 (2) 出席不良者学期15名以下、皆勤学期15名以上 ➡ 出席不良者6名 皆勤者10名 (3) 年間特別指導件数10件以下	A

【3年次以上】		
	内容	評価
重点目標	(1) 学習の基本は授業であることを十分認識させ、授業規律を確立する。 (2) 互いの個性を尊重し、敬愛心を養う。 (3) 自己の生き方を考えさせ、進路実現に向けた行動力を養う。	
具体策	(1) 進路指導部と連携を密にとり、生徒個々の能力・適性を十分に生かせるよう、個人面談や三者面談などを活用する。また継続した学習が基礎学力の定着に繋がり、そのことが自身の進路に有用なことを繰り返し指導していく。 (2) 自ら考えて行動することを基本に、時間を守る・身だしなみを整えるなど規律ある生活の実現を図る。担任団が共通認識をもって丁寧に取り組み、各関係分掌に連絡・相談をしながら生徒の状況の把握に努める。 (3) ホームルームや学校行事などを通して、互いに個性を理解しながら集団内での自己をしっかり自覚し、責任と誇りを持たせる。	
数値目標	(1) 年間成績優秀者20名以上 ➡ 24名 (2) 年間出席不良者30名以下、年間皆勤15名以上 ➡ 出席不良者25名、皆勤者10名 (3) 進路決定率90%以上 ➡ 90.4%	A

#### IV 今年度の数値目標

評価項目	目標値	結果
1 不登校発生率	5.0%以下	4.7%
2 不登校解消率	80%	69%
3 中途退学率	12名以下	8名
4 年間皆勤生徒	各年次10%	1年次 12.3% 2年次 7.4% 3年次 7.2%
5 年間精勤生徒（遅刻、早退、欠席の合計数が10回以内）	各年次20%	1年次 47.3% 2年次 44.4% 3年次 45.7%
6 生徒の家庭学習の定着（家庭学習時間）	1日1時間	26分
7 特別活動の充実（部活動加入率）	60%	51.7%
8 卒業生徒の進路決定率	90%以上	90.6%
9 四大・短大進学希望者の進学率	90%	95.8%
10 学校ホームページアクセス件数（年間）	100,000件以上	128,052件
11 入試倍率（分割前期・後期）	前期1.6倍以上 後期1.5倍以上	1.27倍 0.88倍
12 生徒による授業評価 授業満足度	90%	83.0%
13 学校評価 学校満足度	80%	78.2%
14 学校説明会参加者数（校内実施分）	1,200名以上	1328名
15 未読書率（年間1冊も本を読まなかった生徒の割合）	50%以下	37.0%